

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 25日

事業所名 ゆいはうす

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			学習スペースと活動スペースに分けて支援を行っていて、今後も活動に合わせた環境を整えていく。
	2	職員の配置数は適切である	6			その日の児童数に合わせた職員の配置を行っている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6			児童に合わせて、絵カードやイラストを使って分かりやすいよう場所や流れを表示している。室内に段差はなく、トイレもバリアフリー化している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6			日々の換気や活動後の清掃を行い、心地よく過ごせる環境作りを行っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6			支援について計画、実行、評価、改善を職員全員で行っている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			評価表を基に業務改善につなげていけるよう話し合いをしている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、ホームページに掲載している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6			職員以外の方からの意見や助言も参考にしながら業務改善に繋げている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			他の事業所と合同で定期的に研修を行っている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6			児童や保護者の願いを聞きながら、えいぶるやサービス利用計画に沿った支援計画を作成している。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			えいぶるやサービス利用計画に沿った支援計画を作成・評価している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6			モニタリング会議や担当者会議を通して、支援内容の見直し、確認を行っている。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6			児童の課題に沿った支援を話し合い、個別活動などの課題を行っている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			集団活動や個別活動の内容は職員で話し合って決めている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			日々の活動内容を職員間で話し合い、固定化しないように工夫している。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6			児童の様子に合わせて個別支援計画の内容に、個別活動や集団活動を組み込んでいる。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			朝ミーティングを行い、必ずその日の支援について事前に確認を行っている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			活動後に話し合いの時間が持てない場合は、次の日の朝に必ず振り返りを行っている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			活動記録以外にも職員が自由に書き込める記録用紙を活用している。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6			モニタリング会議の際に、職員で児童の評価、支援目標の見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			事前に職員間で児童について話し合い、話し合った内容を基に会議に参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6			子育て支援センターを訪問し、地域の子供たちの様子を聞く事が出来た。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				現在、医療ケア児の利用無し
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				現在、医療ケア児の利用無し
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6			新しい学校の先生とやりとりする場を設けたり、保護者の方から情報を聞く事で移行支援に繋げている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6			新しい学校の先生とやりとりする場を設けたり、保護者の方から情報を聞く事で移行支援に繋げている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6			今後、専門機関と連携してより一層専門性を高めていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	4		地域のイベントに参加する事で子ども達との関わりを増やしていく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	3		今後地域の行事に参加し、自治会と連携していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			日々の送迎時の申し送りや連絡帳で様子を共有し、保護者との丁寧な対応を行っている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6			ペアトレ等を実施している相談支援事業所等を案内していく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			契約時により一層丁寧な説明を行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6			今後も保護者の方への丁寧な支援の説明を行っている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			日々の送迎時の申し送りや連絡帳、モニタリング以外にも面談等を検討していく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		6		アンケートなどで意見を求めながら、要望があれば保護者会の開催を検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			保護者からの相談があった際、職員間で共有と話し合いを行い、今後も迅速に対応していく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			毎月会報を作成・配布し、申し送りの際も活動内容を伝えている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6			特定の保管場所を決めて、個人情報の取扱いには十分に配慮していく。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			児童や保護者の方の気持ちに寄り添いながら、工夫や配慮を行っている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	1		季節の行事を通して地域の方とコミュニケーションを取る事が出来た。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6			全職員で周知し、それぞれのマニュアルをホームページで公開し、内容を検討していく。ホームページについても周知してもらう。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			避難訓練等、今後も定期的に行い、行った内容など保護者の方にも報告する。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6			保護者の方や病院に確認し、診療情報提供書などを共有している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			医師の指示書を基に対応していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	2		ヒヤリハットの内容を職員間で確認、共有して事故の防止に繋げていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			虐待防止の動画を視聴したり、定期的に研修に参加している。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	2		児童や保護者に事前に説明しているが、今後個別支援計画書にも記載していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。